

分担研究報告書

- 1) 被災地域の相談支援センターの立ち上げと地域緩和ケアネットワークの構築に関する研究
- 2) ICTにより情報共有システムを用いた地域連携モデルの実施可能性の検討

研究分担者 木下寛也 国立がん研究センター東病院緩和医療科科长

研究協力者 遠藤秀彦 県立釜石病院院長

研究要旨

本研究の目的は、1) 東日本大震災により多大な被害を生じた岩手県釜石二次医療圏(釜石市、大槌町)において、がん緩和医療の地域ネットワークを構築することである。そのための支援として、本年度は、定期的に釜石市を訪問し、県立釜石病院緩和ケア病床のカンファレンスに参加し助言を行った。緩和ケア研修会を開催した。緩和ケアの普及・啓発を目的とした市民公開講座を開催した。2) 在宅緩和ケア推進のツールとして、ICTにより情報共有システムを用いた地域連携モデルの実施可能性の検討に関する研究を開始し、50名の患者登録を行った。

A. 研究目的

2011年3月11日に発生した東日本大震災により多大な被害を生じた岩手県釜石二次医療圏(釜石市、大槌町)において、我々は2012年2月より県立釜石病院を中心に、相談支援センターの立ち上げと地域緩和ケアネットワークの構築のための支援を開始した。当初の目的の1つに、岩手県で唯一地域がん診療連携拠点病院がない、釜石二次医療圏において、県立釜石病院を地域がん診療連携拠点病院とすることであった。しかし、地域がん診療連携拠点病院の新規指定が止まっていたため、申請には至らなかった。そこで、第1に、本年度は県立釜石病院の緩和ケア機能の充実と地域住民に対する緩和ケアの普及・啓発を目的とした。

第2に被災地にも応用可能な、在宅医療の推進の課題の1つである医療・福祉従事者間の医療情報共有ツールとしてのICT (Information and Communication Technology) の利用可能性についての検討を目的とした。

B. 研究方法

1) 被災地域の相談支援センターの立ち上げと地域緩和ケアネットワークの構築に関する研究

2014年度の県立釜石病院における支援活動と、釜石市において2度開催した市民公開講座についての記述を行う。

2) ICTにより情報共有システムを用いた地域連携モデルの実施可能性の検討

国立がん研究センター東病院緩和医療科から、地域の訪問診療所に在宅緩和ケア目的に紹介された患者を対象に、ICTを利用して情報共有を行うことの実施可能性を検討するための研究計画を作成した。

(倫理面への配慮)

2)の研究に関しては、研究内で行われる患者への介入は、通常臨床で行われていつ範囲内のものであり、本研究に参加することで特別なリスクや不利益を生じないが、患者の個人情報クラウド型ICTで扱うため、説明同意文書を用いて説明、文書により同意を取得した。

本研究において、研究対象者の個人情報、厚生労働省・総務省が定めた医療情報外部保管ガイドライン（厚生労働省が定めた「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン第4.1版」ならびに厚生労働省・総務省が定めた「ASP・SaaS事業者が医療情報を取り扱う際の安全管理に関するガイドライン第1.1版」、「ASP・SaaS事業者が医療情報を取り扱う際の安全管理に関するガイドラインに基づくSLA参考例」）に準拠したITクラウド型の情報共有システム上で管理をし、同時に同ガイドラインに準拠した安全対策（管理運用規定）を定めた。

C. 研究結果

1) に関しては、

県立釜石病院緩和ケア病床で毎週開催されるカンファレンスに月に2回参加し、助言を行った。当初は研究者が県立釜石市病院を訪問できない際にはテレビ会議システムを利用によりカンファレンスを予定していたが、システム利用に関する当センターの規定の整備が遅れたため、実施できなかった。

県立釜石病院緩和ケア研修会を平成24年11月9日、10日に開催した。受講者は医師9名、歯科医師2名、看護師3名、薬剤師1名、医療社会事業士1名であった。緩和ケア研修会の一部の講義主体のモジュールは、地域の多職種が受講出来るよう公開講座として開放した。保健所職員、歯科医師、看護師、保健師、介護支援専門員、作業療法士など多職種が、1日目15名、2日目25名参加した。

緩和ケアの普及・啓発活動に関しては、釜石市（在宅医療拠点チーム釜石）と協働し、県立釜石病院、釜石市保健所、県立釜石市病院サポーターズの協力のもと、平成25年7月27日と11月16日に市民公開講座を開催した。それぞれ、76名、50名が参加した。

2) に関しては、

研究計画書を作成し、国立がん研究センター倫理審査委員会に承認を得た。さらに、患者情報をICTクラウド上に保存するため、センター内の情報委員会の承認を得るという手順が必要であった。また研究開始前に、医療情

報共有システムの利用における個人情報の保護に関する研修を行った。平成25年2月までに50名の患者登録を行った。

D. 考察

1) 県立釜石病院緩和ケア病床のカンファレンスに参加することにより、地域における緩和ケアの問題点の一部をより具体的に知ることができた。この経験を活かし、さらなる支援の継続を検討したい。緩和ケアの市民公開講座から、地域においてがん医療、緩和ケアに関する情報ニーズがあることがわかり、今後も普及・啓発活動の継続的に支援して行く予定である。

2) 病院と在宅医療の患者情報の共有に関しては、個人情報保護の視点から、病院内における手続き、個人情報保護に関する研修の必要性などのプロセスが必要であることを経験した。次年度は、情報共有内容の分析、情報共有システムを利用経験からの利点、今後の課題等について検討を行い、さらに多職種での情報共有に関する研究を進める予定である。

E. 結論

1) 岩手県釜石二次医療圏において、県立釜石病院緩和ケア病床カンファレンスに助言者として参加した。緩和ケア研修会を開催した。地域住民に対する緩和ケア普及・啓発を目的とした市民公開講座を開催した。

2) ICTにより情報共有システムを用いた地域連携モデルの実施可能性の検討に関する研究を開始し、50名の患者登録を行った。今後、情報共有を行った分析と、本システムに関する、利点、課題等について参加医師の意見の分析を行う必要がある。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Imura C, Morita T, Kato M, Akizuki N, Kinoshita H, Shirahige Y, Suzuki S, Takebayashi T, Yoshihara R, Eguchi K. How and Why Did a Regional Palliative

Care Program Lead to Changes in a Region? A Qualitative Analysis of the Japan OPTIMStudy. J Pain Symptom Manage. 2013 Aug 24. : S0885-3924(13)

2. Sasahara T, Watakabe A, Aruga E, Fujimoto K, Higashi K, Hisahara K, Hori N, Ikenaga M, Izawa T, Kanai Y, Kinoshita H, Kobayakawa M, Kobayashi K, Kohara H, Namba M, Nozaki-Taguchi N, Osaka I, Saito M, Sekine R, Shinjo T, Suga A, Tokuno Y, Yamamoto R, Yomiya K, Morita T. Assessment of Reasons for Referral and Activities of Hospital Palliative Care Teams Using a Standard Format: A Multicenter 1000 Case Description. J Pain Symptom Manage. 2013 Aug 21. S0885-3924(13)
3. Morita T, Sato K, Miyashita M, Akiyama M, Kato M, Kawagoe S, Kinoshita H, Shirahige Y, Yamakawa S, Yamada M, Eguchi K. Exploring the perceived changes and the reasons why expected outcomes were not obtained in individual levels in a successful regional palliative care intervention trial: an analysis for interpretations. Support Care Cancer. 2013 Dec;21(12):3393-402.
4. Asai M, Akizuki N, Fujimori M, Shimizu K, Ogawa A, Matsui Y, Akechi T, Itoh K, Ikeda M, Hayashi R, Kinoshita T, Ohtsu A, Nagai K, Kinoshita H, Uchitomi Y. Impaired mental health among the bereaved spouses of cancer patients. Psychooncology. 2013 May;22(5):995-1001.
5. Zenda S, Nakagami Y, Toshima M, Arahira S, Kawashima M, Matsumoto Y, Kinoshita H, Satake M, Akimoto T. Strontium-89 (Sr-89) chloride in the treatment of various cancer patients with multiple bone metastases. Int J Clin Oncol. 2013 Jul 24.
6. 木下寛也 .ホスピストライアングル, 在宅医療バイブル, 川越正平(編), 日本医事新報社, 385-391, 2014

2. 学会発表

1. 木下寛也 .個別化治療において緩和ケアはどう応えるか～もうひとつの個別化とがん医療におけるケースマネジメント～、合同シンポジウム(日本臨床腫瘍学会との)個別化治療時代のサイコオンコロジーを再考する、第26回日本サイコオンコロジー学会総会、2013年9月、大阪
2. 木下寛也 .大規模災害に備えたがん在宅緩和ケアにおける連携を考える、シンポジウム「震災後のがん緩和ケア・精神心理的ケアの在宅連携」第4回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会、2013年5月、仙台
3. Tomofumi Miura, Hiroya Kinoshita, et al. A retrospective study of the factors tended to transfer to palliative home care from palliative care unit at a comprehensive cancer center in Japan. 第11回日本臨床腫瘍学会学術集会、2013年8月、仙台

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許の取得
なし。
2. 実用新案登録
なし。
3. その他
特記すべきことなし

平成25年度

第1回市民公開講座

がんになっても安心して暮らせるまちづくり

日時

7月27日

13:30~15:30

開催場所

県立釜石病院 2階大会議室

プログラム

参加無料 (直接会場にお越しください)

PROGRAM

1. 「釜石地域における地域医療再生への取り組み」

県立釜石病院院長 遠藤秀彦

PROGRAM

2. 県立釜石病院の取り組み

「放射線治療について」

放射線治療科 関澤玄一郎

「がん相談外来について」

看護部 小笠原良枝

「住み慣れた家で過ごすために」

地域医療福祉連携室 野崎祐子

PROGRAM

3. 在宅医療連携拠点「チームかまいし」の取り組み

「チームかまいし」チームアドバイザー 寺田尚弘

問い合わせ 在宅医療連携拠点チームかまいし

TEL: 0193-55-4536

E-mail: zaitaku@team-kamaishi.jp

平成25年度厚生労働科学研究費補助金地域医療基盤開発推進事業

「被災地域に展開可能ながん在宅緩和医療システムの構築に関する研究」班

主催 国立がん研究センター東病院、釜石市(在宅医療連携拠点チームかまいし)

共催 県立釜石病院、釜石医師会、釜石保健所、県立釜石病院サポーターズ

平成25年度 第2回市民公開講座

プログラム

1

講演①

「がんを病んでも地域で暮らすために」

川越 正平(医療法人財団千葉健愛会 あおぞら診療所 院長)

講演②

「がんとともに生きる」

三好 綾(NPO法人がんサポートかごしま理事長)

2

座談会

「地域で支えるがん医療」

座長 木下 寛也(国立がん研究センター東病院 緩和医療科 科長)

出演者 川越 正平・三好 綾・寺田 尚弘(チームかまいしアドバイザー)
岩崎登久子(社会福祉法人愛恵会 主任介護支援専門員)



三好 綾

・1975年
鹿児島県生まれ、国立長崎大学教育学部卒。
・2002年
27歳時・乳がんの告知後、旧乳がん患者会
どいいずみ副会長など歴任。
・2007年
「がんサポートかごしま」の代表に就任。
著書:「乳がんなんてやつける!」(新風舎)



川越 正平

・1991年
東京医科歯科大学医学部卒業
・2004年
あおぞら診療所院長
・2012年
医療法人財団千葉健愛会理事長
著書:「在宅医療 はじめの一步」
(2011~、日本医事新報、連載企画編集責任)

※参加料無料(直接会場にお越しください)

日 時 **11月16日(土)**
13:30~15:30

開催場所 **青葉ビル研修室**

健康づくりの集いの午後の部として市民公開講座を実施します。

主催 国立がん研究センター東病院、釜石市(在宅医療連携拠点チームかまいし)

共催 釜石医師会、県立釜石病院、県立釜石病院サポーターズ、釜石保健所、大槌町

問い合わせ先

在宅医療連携拠点チームかまいし Tel: 0193-55-4536 E-mail: zaitaku@team-kamaishi.jp

平成25年度厚生労働科学研究費補助金地域医療基盤開発推進事業
「被災地域に展開可能ながん在宅緩和医療システムの構築に関する研究」班

がんになっても安心して
暮らせるまちづくり